

■岡崎市内景況調査結果(平成24年1～3月期分)

景況DIは大幅改善するが、先行きは不透明感が漂う！

○調査対象：本所各部会役員・幹事事業所 435 企業

○有効回答：172 企業（回答率 39.5%）

○調査期間：平成 24 年 4 月 5 日～4 月 18 日

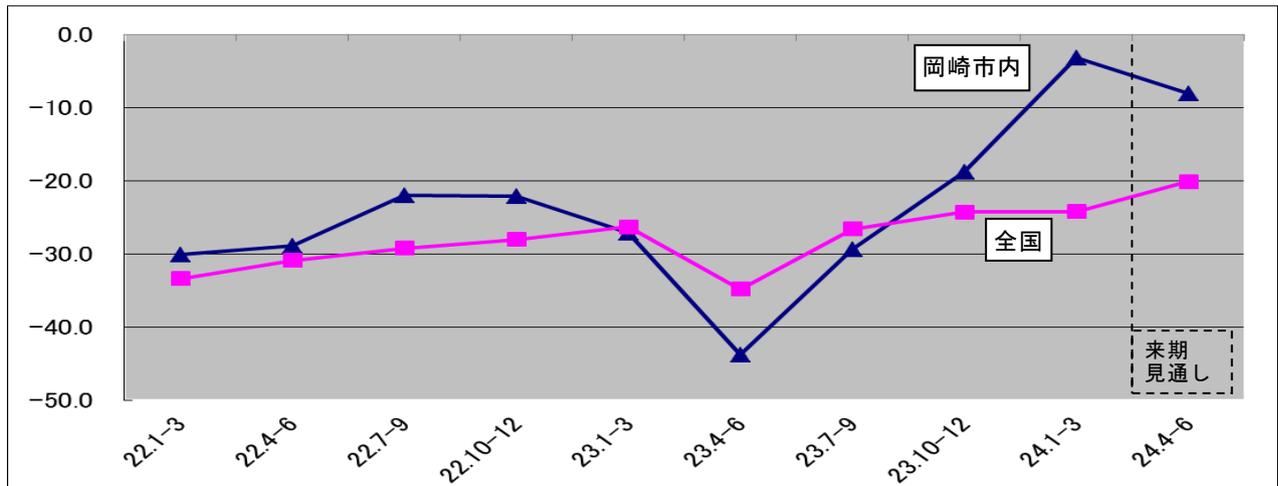
○調査方法：ファクシミリによるアンケート方式

○調査内容：（1）前年同期(平成 23 年 1～3 月)と比べた今期の状況

（2）今期と比べた来期(平成 24 年 4～6 月)の先行き見通し

業種	回答企業数	構成比
製造業	57	33.2%
建設業	37	21.5%
小売・卸売業	36	20.9%
サービス業	42	24.4%
合計	172	100.0%

■市内の景況全体の概要



※全国平均は、(独)中小企業基盤整備機構が発行する中小企業景況調査報告書より引用
(全国の商工会議所、商工会の経営指導員、及び中小企業団体中央会調査員による聞き取り調査。)

○岡崎市内の今期(平成24年1～3月)景況DIは、△3.2(前期比15.6ポイント増)。大幅かつ3期連続で改善した。

○今期景況DIは、前年同期(平成23年1月～3月期)の東日本大震災禍の反動により全ての業種で景況感が改善するとともに、全国平均を大きく上回った。

○来期(平成24年4～6月)景況DIは、△8.1(今期比4.9ポイント減)。震災復興需要を期待するものの、米国景気不透明感や欧州債務問題の再燃化、さらには円高による製造業の海外シフト加速など懸念する声が多く、回復マインドは一服感の見通しとなった。

【データ：全業種】

	前年同期比(前期) (H23.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.4-6月期)
景況	△18.8	↑15.6	△3.2	↓4.9	△8.1
売上額※	△5.9	↑17.7	11.8	↓9.6	2.2
資金繰り	△12.9	↑8.1	△4.8	↑0.5	△4.3
採算(収益)	△22.6	↑12.4	△10.2	0.0	△10.2

※売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

◎本報告書中のDIとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(上昇、好転)した企業割合から、「減少」(低下、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のDIは、 $30 - 20 = 10$ となる。また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算(収益)」のプラス幅が増加し「↑」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「↑」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

■業種別の概要

(1) 製造業

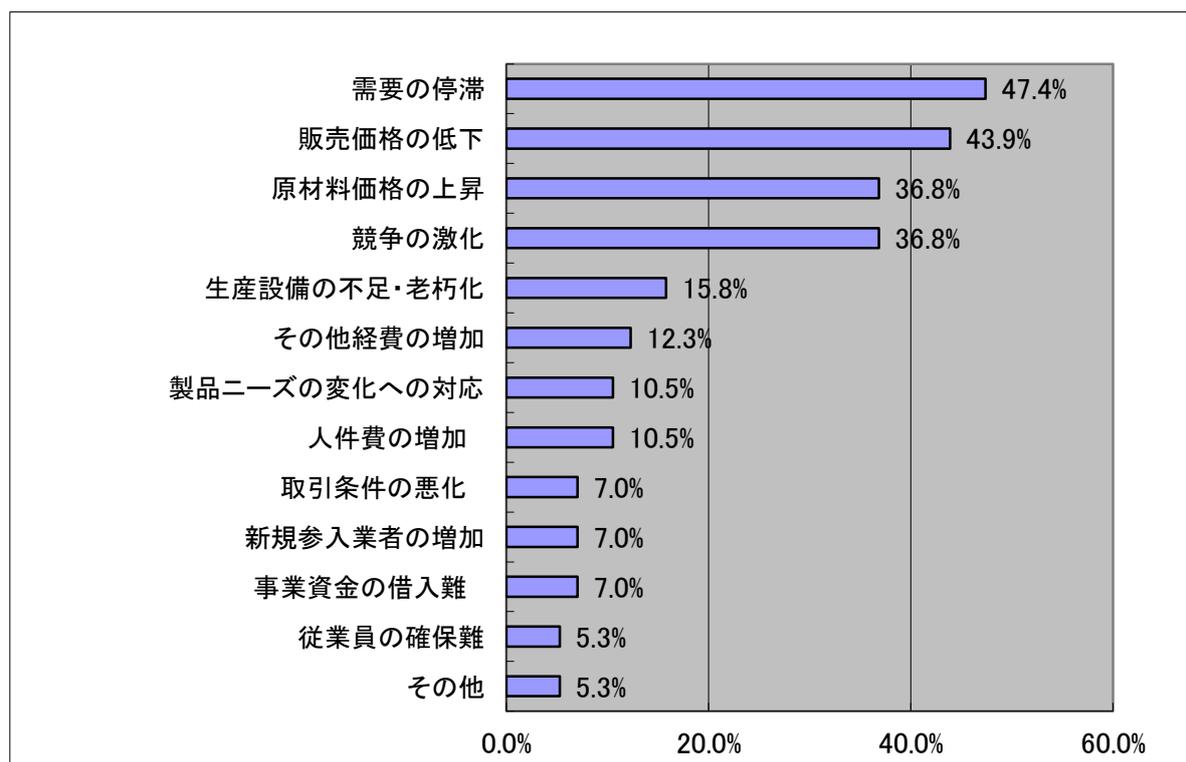
○今期景況DIは、0.0（前期比5.3ポイント増）。景況感は本格回復には至らないが、売上額・採算ともにプラスとなり改善した。

○来期景況DIは、16.4（今期比16.4ポイント増）。景況感は自動車関連を中心に、引き続き堅調に改善する見通しを示した。

【データ：製造業】

	前年同期比(前期) (H23.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.4-6月期)
景況DI	△5.3	↑5.3	0.0	↑16.4	16.4
売上額	15.5	↑7.3	22.8	↓20.9	1.9
原材料仕入価格	43.9	↓1.8	42.1	↓14.8	27.3
製品在庫	△3.5	↑8.8	5.3	↓5.3	0.0
資金繰り	△12.1	↑12.1	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	△13.8	↑20.8	7.0	↑9.4	16.4

【経営上の問題点】※複数回答



(その他)・取引先の現地調達化

【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・円高による海外シフト・海外製品との競争激化。(自動車関連部品)
- ・燃料費高によるコスト増大。(化学製品)
- ・震災復興需要に期待大。(繊維製品)
- ・景気の先行き不透明感が強い。(全般)

(2) 建設業

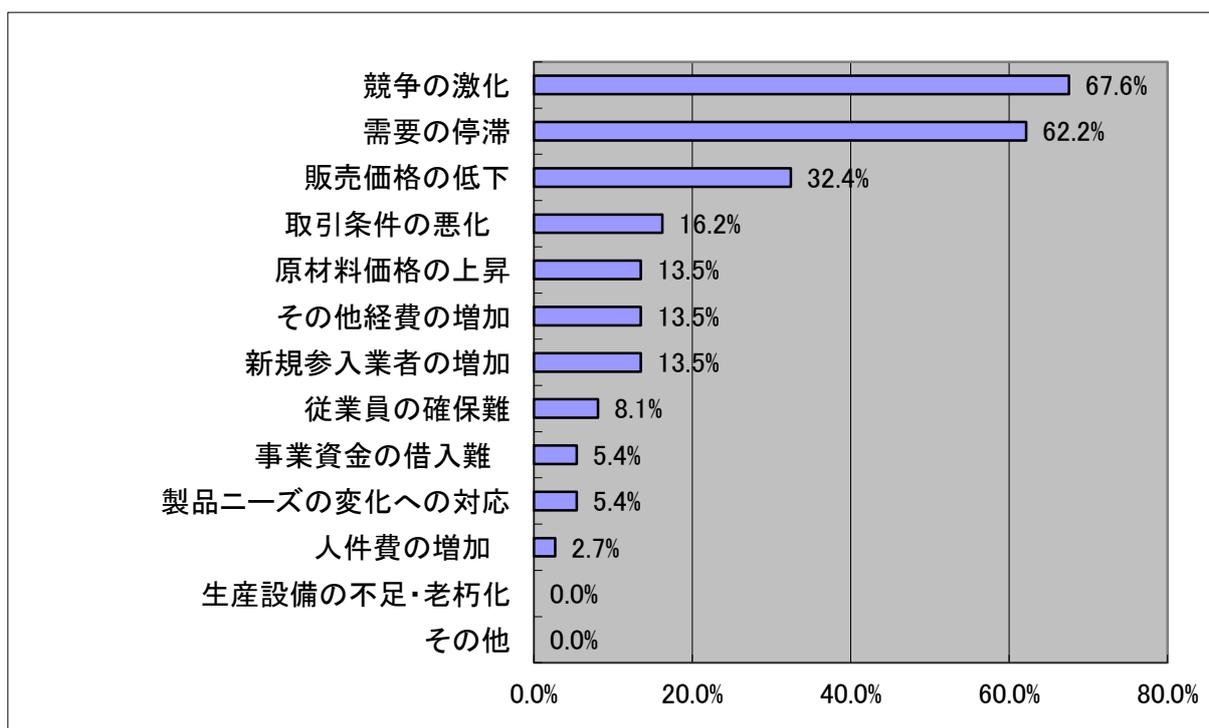
○今期景況DIは、△16.2（前期比31.2ポイント増）。年度末にあたり完成工事額が増加し、景況感は前期より大幅に改善している。ただし、資材仕入価格が若干上昇していることから資金繰りは大幅な改善に至らなかった。

○来期景況DIは、△27.8（今期比11.6ポイント減）。景況感は公共工事関連が端境期で、民間工事関連も大型物件が少なく、下振れ懸念が続く見通しを示した。

【データ：建設業】※複数回答

	前年同期比(前期) (H23.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.4-6月期)
景況DI	△47.4	↑31.2	△16.2	↓11.6	△27.8
完成工事額	△23.7	↑15.6	△8.1	↓8.6	△16.7
受注額(新規契約)	△40.5	↑2.3	△38.2	↑7.6	△30.6
資材仕入価格	35.1	↑4.5	30.6	0.0	30.6
資金繰り	△31.6	↑7.3	△24.3	↑5.4	△18.9
採算(収益)	△60.5	↑30.8	△29.7	0.0	△29.7

【経営上の問題点】



【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・受注競争の激化が継続しており収益面を圧縮している。（総合建設業）
- ・入札価格の低廉化で収益を圧迫している。（水道工事業）
- ・民間設備投資が依然として低迷している。（全般）

(3)小売・卸売業

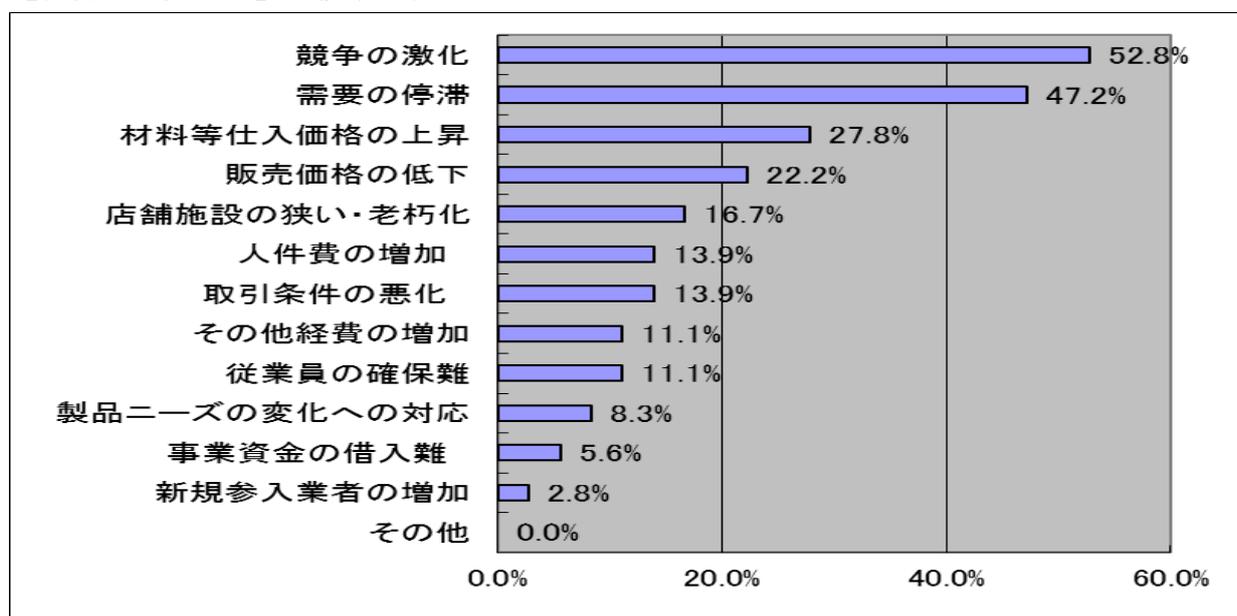
○今期景況DIは、△8.3（前期比12.5ポイント増）。景況感は売上額・採算ともに改善し、資金繰りは若干良くなっている。

○来期景況DIは、△3.0（今期比5.3ポイント増）。景況感は前期に引き続き改善する見通しであるが、消費性向の多様化により勢いを加速させるには至らない見通しを示した。

【データ：小売・卸売業】

	前年同期比(前期) (H23.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.4-6月期)
景況DI	△20.8	↑12.5	△8.3	↑5.3	△3.0
売上額	△12.5	↑26.4	13.9	↓7.8	6.1
商品仕入価格	34.0	↓17.3	16.7	↓1.5	15.2
商品在庫	△16.7	↑13.9	△2.8	↓6.3	△9.1
資金繰り	△8.3	↑5.4	△2.9	↓0.2	△3.1
採算(収益)	△14.6	↑6.3	△8.3	↑5.3	△3.0

【経営上の問題点】※複数回答



【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・個人消費を喚起する政策に期待。(衣料品販売)
- ・デフレ対策に期待。(身回り品販売)
- ・仕入価格上昇分を売価に転嫁できていない。(石油製品販売)
- ・価格高騰で節約ムードが高まり消費の冷え込みが懸念される。(石油製品販売)
- ・売上が伸びない中で、原料価格が上昇し採算が悪化している。(飼料販売)

(4) サービス業

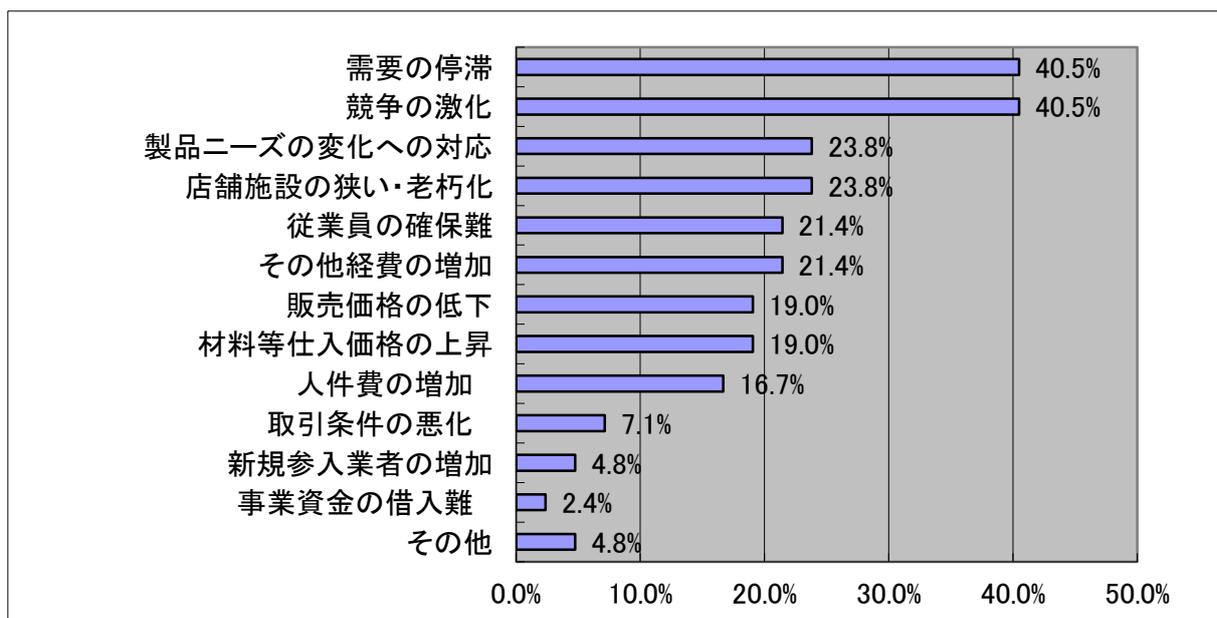
○今期景況DIは、7.1（前期比16.4ポイント増）。利用客数も上がり、売上額・採算ともに大幅にプラスで景況感も改善した。

○来期景況DIは、11.9（今期比4.8ポイント増）。来期の景況感は若干であるが上向く見通しを示した。

【データ：サービス業】※複数回答

	前年同期比(前期) (H23.10-12月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.1-3月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.4-6月期)
景況DI	△9.3	↑16.4	7.1	↑4.8	11.9
売上額	△11.6	↑28.7	17.1	↓0.4	16.7
利用客数	△14.6	↑28.9	14.3	↓7.2	7.1
資金繰り	△2.3	↑4.7	2.4	↓2.4	0.0
採算(収益)	△9.3	↑6.9	△2.4	↑7.2	4.8

【経営上の問題点】



(その他)・為替相場の影響
・一部顧客による業績変動

【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・東日本大震災の影響は脱却しつつあるが、外国人旅行客の回復には至っていない。(旅行業)
- ・客室稼働率は改善傾向にあるが、宴会の客単価は横ばい状況。(ホテル)
- ・入校生は堅調に推移しているが、経費増により収益は微増。(自動車教習所)
- ・燃料が高止まりしているが、自動車関連の需要増に伴い大幅に採算が向上。(運送業)
- ・新聞購読世帯減少やコンビニ増加による影響で書籍売上が減少している。(新聞図書販売)
- ・円高に一服感がみられるが、今後の為替変動に着目している。(全般)